井上廣子 作品展

Hiroko Inoue
Works Exhibition



立命館大学国際平和ミュージアム　ギャラリー企画展

Being in the Face＋交差するまなざし

12/4[fri]-12/23[wed]

立命館大学国際平和ミュージアム 1階企画展示室

［開館時間］9:30 - 16:30（入場は16:00まで）［休館日］ 日曜日、祝日の翌日

［料金］大人400円(350円)、中高生300円(250円)、小学生200円(150円)

※()内は20名以上の団体料金 ※立命館で学ぶ人・働く人は無料です。※ 障害者手帳・被爆者健康手帳・戦傷病者手帳をお持ちの方は付添1名を含めて無料となります。

ミュージアム
公式ウェブサイト

立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University

主催 ： 井上廣子
協力 ： Yoshiaki Inoue Gallery
後援 ： 立命館大学国際平和ミュージアム

Being in the Face + 交差するまなざし

海を隔てたユーラシア大陸から吹く乾いた風は、低い音を響かせながら、荒涼とした山や谷やツンドラの大陸の間を、生命あるものの側を縫うように渡っていった。

2002年の晩夏に、アメリカ アラスカ州北西端にあるベーリング海に面した町ノームにいた。当時この町の人口は約4000人で、その半数の住民がイヌイットの人々で、ここに約１ヶ月間滞在し、辺境で生きる彼等と生活を共にする為だった。

この小さな町の犯罪トップがドメスティックバイオレンスの加害(DV)だと知り、その様な場面にも遭遇した。イヌイットやネイティブ・アメリカンズの多くは、仕事も少なく過酷な環境下での生活で女性や子供達に犠牲が強いられていた。この現実を前に初めて人物のポートレートを作品化することになった。

1992年より現代美術の作家として、アジア、北米、欧州で作品制作及び発表をし、現在日本とドイツを往来しながら作家活動をしている。

1995年阪神淡路大震災は、文明社会の脆弱さを露呈し、人々の心中に深い影を投げかけた。この事を契機に日本やドイツの忘れ去られて行く人々の魂の軌跡をテーマとして表現している。
ヨーロッパで暮らしていると、移民や難民の歴史について考えざるを得ない。ここ2〜3年前から歴史がロールバックしているのではないかと思う様なドイツの分断化を象徴する光景に何度か出会った。人間とは、歴史とは、教育とは何なのかと自問する時間が多くなった。

国家間の対立や危機的状況にある地域から、自国を去り難民としてドイツに入国し、生活する女性達(アフガニスタン、シリア、アフリカ、ウクライナ等)のポートレートを撮りたいと。彼女達と話をする中で、ドイツに入国する前後に、それぞれの家族に多くの物語があることを知った。文化や言語も違う国での生活。言葉では言い表せない絶望や生への希求をどの様に作品化出来るのだろうか。ひび割れた作品を制作することによって、過去の悲嘆から未来への歩みを表現できないだろうか。
2026年現在の世界的に不安定な情勢下で生きる彼女達、私達の想いを作品に重ねたいと思う。

井上廣子

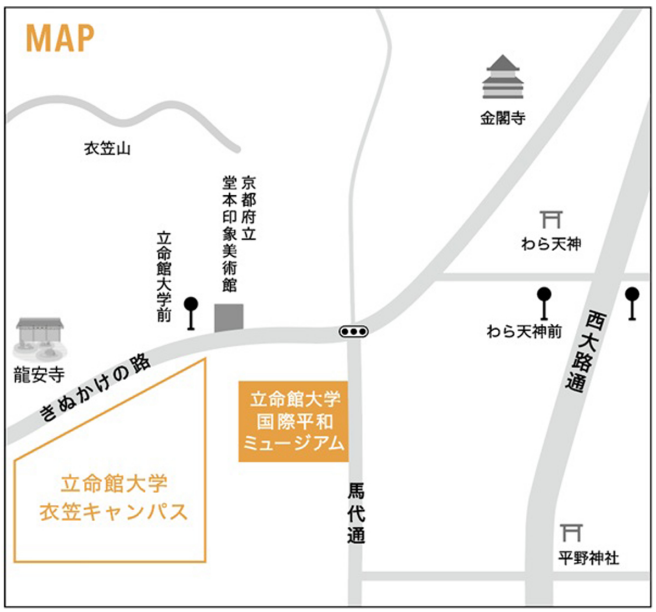
トークイベント

12/12(土)　11:00 － 13:00
立命館大学国際平和ミュージアム 1階企画展示室

《今、ドイツの政治及び芸術文化シーンで何が起きているのか》

木戸衛一（大阪大学招へい教授・ドイツ現代政治）
×
北原恵（元大阪大学教授・美術史・表象文化論）
×
井上廣子（現代美術家）

※どなたさまでも、ご予約なしでご参加いただけます。



立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8151
https://www.ritsumei.ac.jp/rwp-museum/
本展に関するお問合せ ： h-inoue@art.email.ne.jp（代表：井上廣子）

ミュージアム
公式ウェブサイト